

# 第2回社会貢献事例発表会の開催報告

Contribution to Society Case Study Presentation Report

社会貢献委員会

## 1. 社会貢献事例発表会開催の概要

2月24日 第二回社会貢献事例発表会が開かれた。今回は昨年3月の東日本大震災へ技術士会会員が取り組んだ事例を基に技術士会員としての社会貢献活動を行うときの課題を考え議論する目的で実施した。

全国で事例発表会に参加いただくためWeb会議システムを利用し北海道、東北、中部、近畿の各地域本部がリアルタイム中継を実施した。発表会場に約65名、Web会議に30名が参加した。

当日は日本技術士会内村会長のご挨拶で始まり、東日本大震災への技術士会員としての3つの社会貢献事例発表を行った。さらに大元防災委員会委員長を発表者に加えパネラーとし、社会貢献委員会川畑委員長のコーディネートのもとでパネルディスカッションを実施した。Web会議を利用し全国からの発言もいただくことが出来た。



写真1 Web会議で地方本部の参加者の映像

この発表会には、大学技術士連絡協議会の他、ソニー技術士会、日本無線技術士会、明電舎技術士会、日立技術士会の企業内技術士会にも協賛を頂いた。

## 2 事例発表概要

**発表1 「311大震災における復興まちづくり支援と技術者の果たすべき役割と課題」**

佐藤隆雄 建設部会

(独)防災科学技術研究所

社会防災システム研究領域 客員研究員



写真2 佐藤さんの発表

佐藤さんは被災地に赴き被災者の方たちとともに復興を目指し建築関係等の専門技術士として社会貢献をされている。真に被災者に貢献するための復興の原則を定められ「連続復興」「地消復興」「新しいまちづくり」「持続発展可能復興」を目指した支援が重要であると指摘した。

さらに、現地・現場、被災者自身の身になって貢献するためには、コーディネータになって支援の組織化に取り組むことの必要性を話された。

また、技術者としての果たすべき役割について技術への過信、自然の外力を人工の力で押さえつけるという考え方等技術の使い方を考えることが必要であるとし、我が国最古の防災対策法は養老律令(718年)に記載されており、これが守られていれば今回の被害は低減できたとの指摘が印象的であった。



写真3 報告会参加者

### 発表2 「情報技術を生かした災害支援とボランティアネットワーク」

田中令子 情報工学部会修習技術者  
有限会社 M.I.R.A.I.MUGEN 取締役

震災前から種々の社会貢献活動を行っていた田中さんは、震災後仲間たちと地元横浜に避難してきた被災者の方々への支援、停電情報等ホットな情報へのアクセス困難者への支援活動等の紹介をされた。地震当日は応急手当に関する情報や、帰宅困難者向け情報を発信、その後は情報弱者への情報伝達等の支援活動を実施された。専門である情報技術を活かし、Twitter 等の新しい情報伝達手段を活用した活動であったが、日頃からの仲間との人的ネットワークの存在が重要であったと語っていた。



写真4 田中さんの発表

### 発表3 「3.11 以降の原子力・放射線部会の取り組みと個人活動」

桑江良明 原子力・放射線部会長  
電源開発(株) 勤務



写真5 桑江さんの発表

桑江さんから原子力発電所の事故後、原子力・放射線部会の中から起こった「部会としての組織的活動をすべき」という動きとそれに基づく具体的な活動内容の報告があった。

部会員のほぼ 100%近くが原子力・放射線関係機関の組織内技術士である部会の中で「技術士はこういう時こそ存在意義を示すべきではないか」との議論が起こり具体的な支援活動に繋がっていった。

警戒区域への一時立ち入りを支援する「避難住民一時帰宅プロジェクト」へ部会として取り組み延べ20名が参加した活動になった。実施にあたり顕在化し取り組んだ「組織の壁」等について指摘した。

放射線・除染等に関する正しい情報の「解説チーム」の発足、防災委員会と連携した「富岡町災害復興ビジョン策定委員会」、「同復興計画策定委員会」への参画、「避難者相談会」等への参画などの部会としての具体的活動が報告された。有資格者の集まりである技術士会は技術の専門家として信頼され必要とされたと話された。

## パネルディスカッション

「大規模災害時に於ける事例を踏まえた、技術士会員の社会貢献について課題」

広域避難者相談会と交流会等で現地支援を行っている防災支援委員会から大元委員長が発表者に加わりパネルディスカッションが行われた。



写真6 大元さんの報告

発表内容をもとに技術士会としての社会貢献の課題等に関して活発な意見交換が行われた。Web会議で参加されていた各地方本部からの発言も多く受けることが出来た。

復興は総合技術であり、技術士会は多くの技術分野があり、広く貢献できるポテンシャルを有しているが、日頃のネットワークがいざというときの活動には重要である。問題意識を持ち現地に赴き技術士として出来ることをやっていく。実際に行動することの重要性等に関する発言が行われた。



写真7 パネルディスカッション

## 3 全体を通して 反省

今回アンケートを実施し多くの参加者から回答をいただいた。具体的に社会貢献活動をされている事例発表に触発され、これから参加したいとの意見、大災害が起こらないような技術への謙虚さの重要性等が記載されていた。

社会貢献委員会として今回の事例発表会を踏まえ今後の活動に活かしていきたいと考えている。また会員各位におかれましても、事例を参考に具体的社会貢献への取り組みをお願いしたい。

Web会議等でお手伝いいただいた日本技術士会事務局の方々に深く感謝する。

(なお、発表内容の詳細につきましては、社会貢献委員会のHPIに公開しています。)